

Concordia Res Parvae Crescunt

小なるものが絆で結ばれ 大なるものとなる

サルスティウス『ユグルタ戦記』より

CONTENTS

- 2 コラム
「絆で結ばれ、広がる慶進の世界」
- 3 絆が創る「史上最高の慶進」
13期生へのメッセージ
- 4 1st Stage | 紡がれる慶進生の絆
- 5 特集 | 慶進生の家族の絆
La Classe de Keishin
- 6 進学羅針盤
- 8 2nd Stage | 時の人
- 9 3rd Stage | 部活動の絆
- 10 同窓生
- 12 La Photo de Keishin
お知らせ
小さな本箱



絆で結ばれ、広がる慶進の世界

Concordia Res Parvae Crescunt 「小なるものが絆で結ばれ、大なるものとなる」。この本号のタイトルを知っている人は、そう多くはないでしょう。

今から二千年前に、サルスティウス・クリスプスが著した『ユグルタ戦記』の一節です。

歴史的背景はさておき、この格言のラテン語を簡単にみてみましょう。concordia は「調和」を意味し、手段の奪格ですので「調和によって」と訳されます。res は「物・事」の意味でこの文の主語となっており、これに形容詞 parvae 「小さい」がかかり「小さな物」となります。そして crescant 「成長する」が述語となります。ラテン語を解する人に怒られそうな乱暴な説明ですが、ここから直訳すると「小さな物が調和によって大きくなる」となります。

だが、これでは本号の内容をよく伝えることができません。ラテン語だけを見ると本号にふさわしいと感じますが、日本語に訳すと違ってくる。これが言語の難しい所なのかもしれません。

では、どのような訳をあてると本号にふさわしくなるのか。本号における難題でした。しかし、本号の紙面が仕上がってくる中で、二つのことが日本語訳のイメージをふくらませてくれました。

一つは表紙絵です。今回の表紙絵はオーストラリアの世界遺産グレートバリアリーフです。世界で

も有数の豊かな生態系をもつサンゴ礁の景観が多くの人々を魅了しています。数年前になりますが、この海に潜ったことがありません。その時、一つ一つの生命は小さい物でしたが、それらがサンゴ礁の周りに集まることで大きく魅力的な「世界」を作り出していました。

もう一つは三月の末に行われた10期生の実力強化合宿です。この合宿中に前触れもなく3期生の卒業生が激励に訪れてくれました。3期生の卒業と同時に10期生が入学したので、互いに見知った仲ではありません。しかし、先輩の来訪が10期生を触発し、一時間近くも将来について3期生と語り合った10期生もいました。これが中高一貫六年間の絆なのでしょう。本号でも多くの慶進生が、六年間だからこそ」と語っています。六年間の慶進の絆が一人一人の慶進生を結びつけ、慶進の世界 Le Monde de Keishin」を広げています。

だから、決してうまくはありませんが、「小なるものが絆で結ばれ、大なるものとなる」という訳語をあてました。六年間の絆で結ばれた「慶進の世界」をご覧ください。

6年中高一貫教育 英知を尽くし、未来を切り拓く。

慶進では生涯にわたって役立つ学力を身につけるために、6年間を2・2・2の3つのステージで構成しています。勉強のおもしろさを知ることから始まり、生徒たちが主体的に学習に取り組み、学内外の様々な体験活動で、豊かな人間性と、ともに生きる力を育み、次世代のリーダーとなる人材を育てます。

1st Stage		2nd Stage		3rd Stage	
基礎学力養成期		実力充実期		発展応用期	
中学1年生	中学2年生	中学3年生	高校1年生	高校2年生	高校3年生

絆が創る「史上最高の慶進」

平成二十八年二月二日、平成二十八年慶進中学校生徒会長選挙がおこなわれ、11期生 林裕子さん（中三）が生徒会長に選出されました。新生徒会長が目指す慶進について語ってもらいました。

慶進中学校には、三学全年体で取り組む行事がたくさんあります。

例えば慶進祭です。慶進祭では中学校・高校が丸となり、毎年違ったテーマを決め、そのテーマに合わせたすばらしいものをつくりあげます。

各クラスは当日まで時間をかけて準備をしていきます。また、実行委員の人は高校生と一緒に展示の打ち合わせを行うなど大忙しです。私も、昨年度は実行委員を務め、慶進祭の裏方として働きました。毎日放課後残って行う作業は大変でしたが、終わったときの達成感はとてもいい思い出になっています。クラス展示でも、みんなで試行錯誤して完成したときは本当にうれしかったです。

このように、各クラスの団結力はもろろのこと、日頃関わりの少ない中学生と高校生が共につくりあげるといふ点で、慶進祭は慶進全体の「絆」が深まる行事だと思います。

生徒会長 11期生

林 裕子（中三）



また、中学校では九月にスポーツフェスティバルが行われます。各色の団長を中心に、一生懸命競技や応援に取り組めます。同じ目標に向かうことで、縦のつながりを感じられ、先輩・後輩が仲良くなるきっかけにもなっています。

この度、私は生徒会長になり、このような行事をより充実したものにしたいと思っています。私たち11期生には過去十年分の先輩方の経験があります。過去の成功はもちろん、改善点があれば見直していきたいと思っています。目指すは「史上最高の慶進」です！

クラス・学年はもろろん、学校のつながりが強く、一人ひとりの持つ「才能」が輝くことのできる集団こそ最強です。そして、目立つ人だけではない

く、全員」が輝けてこそ、「絆」です。

まだまだ発足したての生徒会・中央委員会ですが、最高学年として慶進を引っ張っていきたいと思います。そして、来年の四月、12期生の新しい生徒会が発足したときには、11期生は団結力があってよかった。この流れを受け継いでいきたい。」と思ってもらいたいです。そのためには、様々な行事を通していく中で、私たちが一つずつ成長していくことが、これからの目標です。

「一人ひとりが楽しく、心が落ち着ける」そんな学校を目指していきたいましょー！

そして最後に、11期生のみなさん、これからは私たちの出番です。最高学年として、学校を盛り上げるべく、頑張りましょー！

慶進中学校・高等学校中高一貫コース13期生のみなさん、入学おめでとうございます。

これから始まる六年間はみなさんにとって「未知の時間」であり、「これから何が起こるのかワクワク！」しているのではないのでしょうか。そして、少し気の早い話ですが、六年後にこの学校を巣立つ瞬間には、みなさんが歩んできた「道」になるはず。「未知」を一人ひとりが充実感を持つことのできる「道」にしていくためには、自分自身、そして13期生の仲間同士が、「出会い、悩み、考え、進む」ことが必要です。もちろん楽しいこともたくさんあるでしょう。しかし、その一方で、本当に苦しい瞬間も同じくらいあるはず。そのいずれもがみなさんにとって意味のある時間になるように先生は全力でサポートしていきたいと思っています。そして慶進の全体がみなさんのすべての瞬間をサポートしていく気持ちで今日の日を迎えています。さあ、六年間のスタート！張り切っていきましょう。

13期生へのメッセージ

13期生のみなさん、入学おめでとうございます。

みなさんはこれから小学校六年間と同じ時間、六年間をこの慶進で過ごすこととなります。

さて、振り返ってみてください。小学校六年間で自分ができるようになったこと、いくつかありますか？「一人で朝起きることができるようになった。」「自分ひとりで買い物にいけるようになった。」「いろいろとあると思います。これからの慶進での六年間では、今まででは考えられないほどの難題を自分で行えるようになってもらえないといけません。一人の力ではどうしようもないこともあるでしょう。そのとき、力になってくれる仲間が13期生です。力になれる仲間も13期生です。

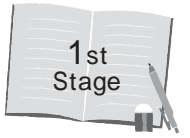
昨年のワールドカップで話題になったラグビーでよく使われる「One for All, All for One」という有名な言葉があります。この六年間のスタートにあたって是非とも心にとどめておいてほしいと思います。「一人は皆のために、皆は一人のために。」



中学1年2組担任 川尻 凌平



中学1年1組担任 西山 智彦



紡がれる慶進生の絆

宿泊研修



12期生
伊藤千聡(中2)

四月上旬、入学したばかりで不安のほうが大きかった頃に行われたのが徳地での宿泊研修でした。

私は人見知りだったため、研修に行くまで、友達と上手く話すことができるのか「研修を楽しむことができるのか」毎日考えていました。

不安いっぱい迎えた研修初日。仲良くなれた人はまだ班の中にいなくて、緊張していました。しかし、いろいろな活動を一緒に体験し、たくさんのお話をしていくうちに少しずつ緊張がほぐれていきまし

た。また、友達のことも段々と分かるようになりました。

研修二日目、TAPという活動の中で、五メートルの高さにある丸太を渡るアクティビティがありました。私は、友達の励ましのおかげで、友達に体を預けることができ、渡りきることができました。仲間を信じることでできなかったら、きつと渡ることとはできなかったと思います。少し怖かったけど、いい思い出になりました。

この三日間の研修があったおかげで、バラバラだった私たち12期生も、思った以上に早く友達と打ち解けあうことができ、学校生活もより楽しく過ごせるようになったように思います。そして、六年間一緒に場所で学ぶ仲間として、絆を深めていく第一歩にすることができました。

慶進中学校二年生は、四月に国立山口徳地青少年自然の家で二泊三日の宿泊研修を実施します。様々な小学校から集まった一年生が、徳地アドベンチャー教育プログラム(TAP)やオリエンテーリングを行うことで、慶進生としての意識と、仲間との絆を育みます。



宿泊研修:TAPの丸太わり



修学旅行:東京ディズニーシー



修学旅行:夕食

ファーストステージでは、慶進生としての人間力を育むための様々な行事が用意されています。その中でも、宿泊を伴う行事は慶進生の絆を深め、結びつきを強めます。そこで、宿泊研修、修学旅行で慶進生が紡いだ絆を教えてください。

修学旅行



11期生
畑谷透哉(中3)

修学旅行を通して嬉しかったこと、優しさを感じたことがあります。

そして、みんなと協力することの大切さを知りました。それは小さなことかもしれませんが、それが、僕にとってはとても温かい思い出です。

一日目の夕食での出来事です。その日の夕食は中華料理で、僕が遠くの料理に手が届かず困っていると、その様子に気付いた周りの友人が、取るうか?と自分から言ってくれました。とても嬉しく、また、優しさを感じました。誰かに言われるのではなく、自

然とそう思うことができるといことはとても素敵なことだと思います。

また、僕がデジカメのバッテリーをなくしたとき、同室のメンバーと一緒に探してくれて、僕はみんなにも感謝しています。

修学旅行ではいろいろなところに行きましたが、僕が一番友達との仲を深められたのはホテルの中でした。ホテルではいろいろなことをして楽しみました。コンビニに行ったり、テレビを見たり、トランプで遊んだり、くだらないことで笑ったり、とても充実した時間を過ごすことができました。

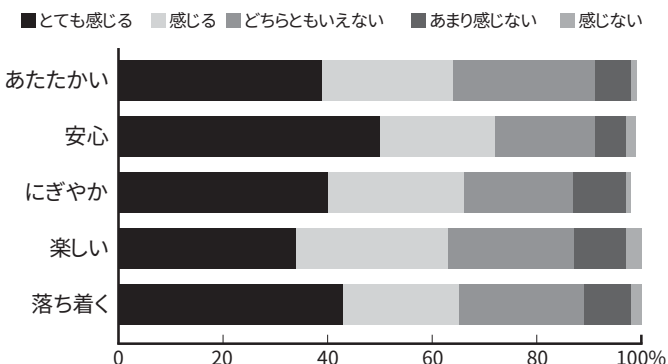
今回の修学旅行では、多くの場面で11期生の絆を感じることができました。このメンバーで過ごすこれからの四年間でさらに絆を深め、チーム11期生を歴代最強の慶進生にしていきます。

中一の十二月に東京へ修学旅行に行きます。キャリア学習の一環として早稲田大学、東京大学を見学し、ディズニーアカデミーなどを体験します。自分の将来について考えるのはもちろんですが、仲間との絆を深め、中学校での大きな思い出の一つとなります。

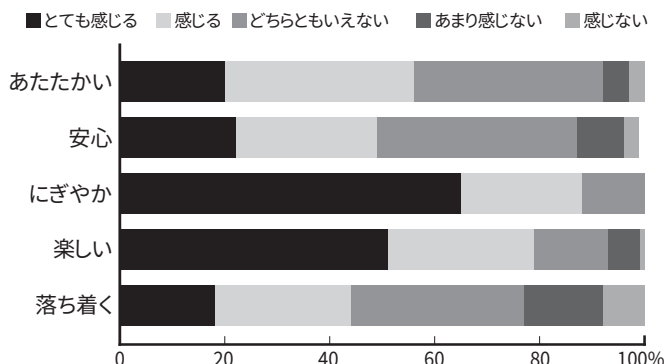
特集 | 慶進生の家族の絆

慶進生的一天を考えてみると、どこで過ごす時間が多いのでしょうか。塾や習い事といった場所もちろんありますが、多くの慶進生にとってやっぱり慶進と家をもっとも多くの時間を過ごす場所ではないでしょうか。授業や部活を通して紡がれる慶進での絆と、家族で紡がれる家での絆が慶進の世界を織りなしています。そこで、慶進生が家族とどんな絆を紡いでいるか、慶進中学生全員にアンケートをおこない探ってみました。そこからは、思春期の恥ずかしさゆえの回答も垣間見えながら、家族への感謝が見えてきました。また、「あたたかくて安心する」家族という糸と「にぎやかで楽しい」慶進という糸が慶進の世界という織物を編んでいることもわかりました。

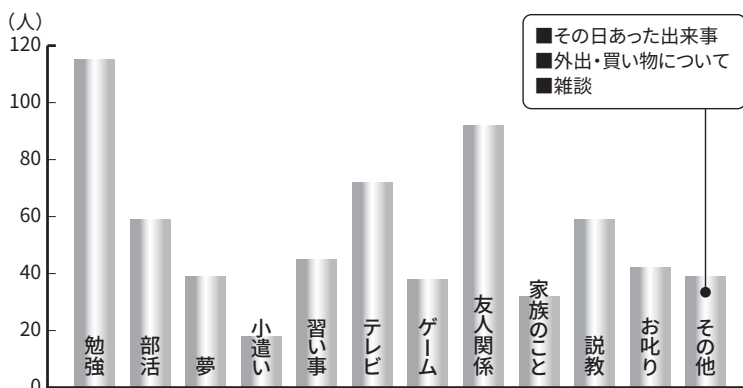
Q 家族に対するあなたのイメージは？



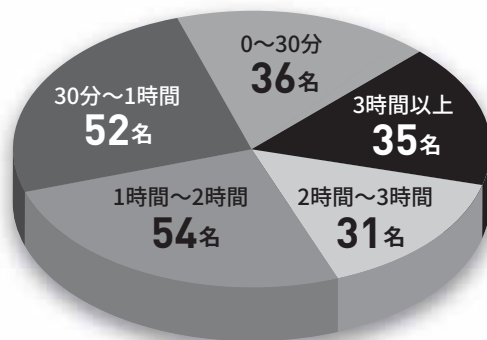
Q 慶進に対するあなたのイメージは？



Q 家族とよく話す内容は？



Q 家族と平日に会話する時間は？



Q 家族へ感謝していることは？

- 強制された道ではなく、自分の道を選ばせてもらっていること [中3・女]
- 毎日生懸命働いてくれるところ [中2・女]
- こづかいを10日で1,000円くれるところ [中1・男]
- いつも私の将来を考えて叱ってくれるところ [中1・女]
- 毎日弁当を用意してくれること [中2・女]
- いつも味方になってくれて応援してくれること [中3・男]
- いつもにぎやかで正面から私をみてくれていること [中3・女]

La Classe de Keishin

「科学研究会」理科

僕が科学研究会に入った理由は、実験ができるから、ということでした。授業時間だけではできないような実験をすることができると思ったのです。そして入ってみると、科学研究会はその期待を裏切りませんでした。

ホバークラフトや、ゴールまで鉄球が転がる時間をできるだけ長くする装置などの作成では、完成形を自分で考えて作らなければならないと、とても頭を使いました。またその他にも試薬に含まれるイオンの区別など、広い分野にわたって実験をしました。

僕が特に印象に残っているのは、ビタミンC入り飲料中のビタミンCの割合の測定でした。実験自体も面白かったです。しかしそれだけでなく、実験がこれまで習ったモルというものを利用しており、今習っていることはちゃんと使えるものなのだと実感しました。

僕は科学研究会で、実験の楽しさだけでなく、今習っていることの有用性や答えを追求することの面白さを学ぶことができました。

10期生 佐野 正道(高1)



進学羅針盤

三月一日、七期生が巣立って行きました。これまで一期～七期の七年間卒業生を送り出してきた中高一貫コースですが、先輩たちの合格を分けた分岐点は中一～高二のどこにあったのでしょうか。また、合格するためのポイントはどこのようなものだったのでしょうか。実際に、先輩の偏差値推移のグラフを追いつながら、自分に照らし合わせて考えてみましょう。

1st Stage (中1・中2)

- あてはまるものをチェック
- 毎日の学習時間が3時間以上
 - 忘れ物をしない
 - 提出物はすべて出す
 - 小テストはすべて合格
 - 学習計画を立てられる
 - 4点固定(起床・夕食・学習開始・就寝の時間)ができている
 - 全教科の平均評定が4以上
 - 5教科の評定が全て5
 - 学力推移調査の全教科の偏差値が60以上
 - 学力推移調査の平均偏差値が65以上

START!!

9・10個……Aから
 7・8個……Bから
 5・6個……Cから
 4個以下……Dから

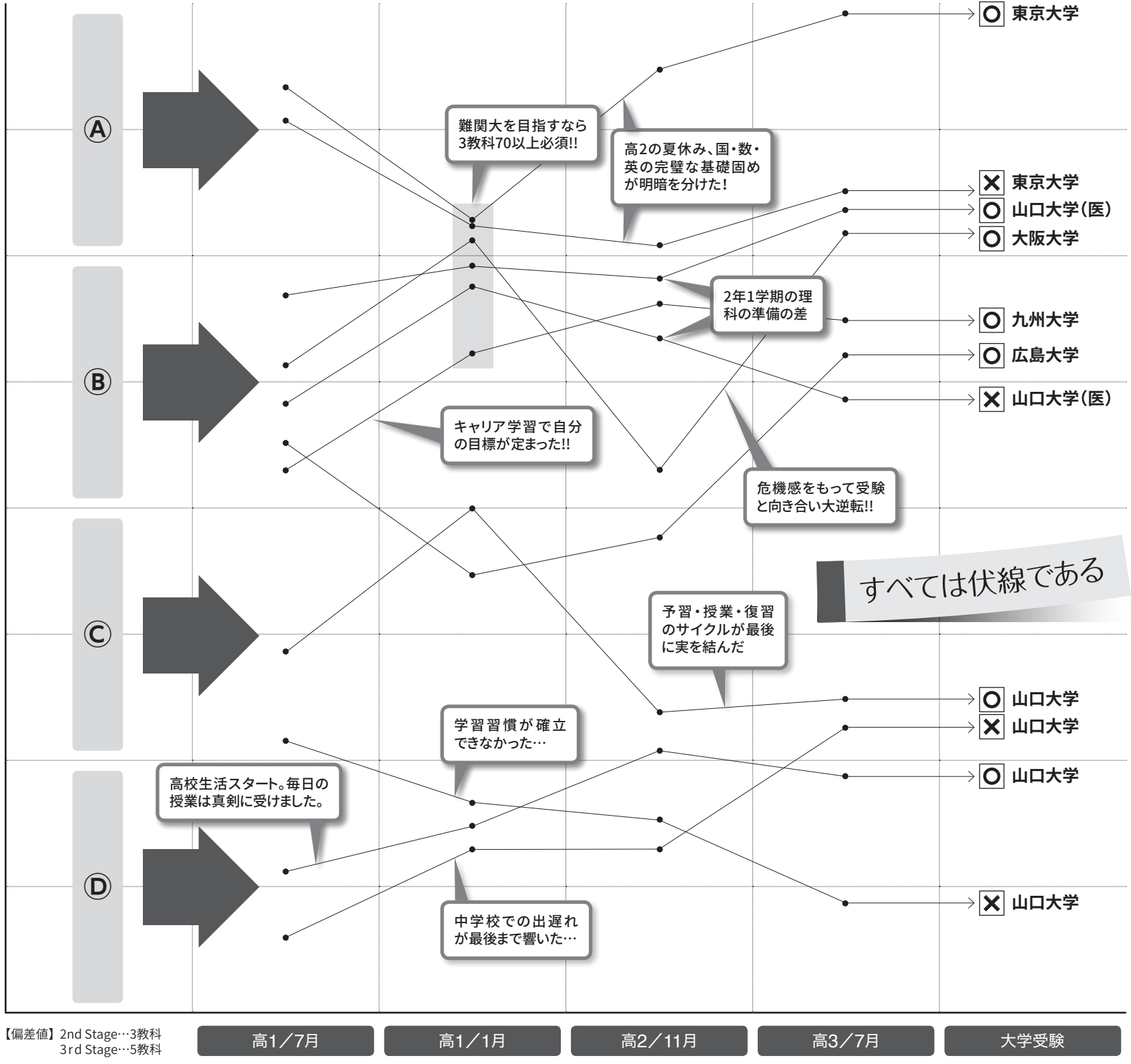
の数が

2016年度 中高一貫コース大学入試合格実績

国立大学・大専校		私立大学	
東北大学	1	早稲田大学	1
筑波大学	1	慶應義塾大学	1
電気通信大学	1	明治大学	2
大阪大学	2	中央大学	5
神戸大学	1	津田塾大学	2
広島大学	2	昭和大学	1(1)
山口大学	12(4)	関西学院大学	3
鳥取大学	1	関西大学	2
九州大学	2	同志社大学	1
福岡教育大学	1	立命館大学	12
長崎大学	1	西南学院大学	2
水産大学校	1	福岡大学	9(2)
航空保安大学校	1	久留米大学	1(1)
国立看護大学校	1	京都薬科大学	1
()は医学部医学科	4	大阪薬科大学	1
公立大学		神戸薬科大学	2
広島市立大学	1	その他	29(1)
高知県立大学	1	()は医学部医学科	5
山口東京理科大学	1		

(3月25日現在)

2nd Stage



【偏差値】 2nd Stage…3教科
 3rd Stage…5教科

2nd
Stage

時の人

慶進では多くの慶進生が自分の将来に向けて輝いています。この「時の人」のコーナーではそんな輝く慶進生を取り上げていきます。今回は、「音楽における物理的要素とその影響」について修了論文を書いた10期生李卓衍さん(高一)、テーマ発表会で獣医学について発表した9期生戒能靖史くん(高二)、将棋の大会で優勝した10期生中島秀幸くん(高一)を紹介いたします。

写真は3月の中学校在籍時



修了論文: 題目「音楽における物理的要素とその影響」

三月十七日一学期から準備をしていた修了論文。この日発表会という形で締めくくりました。

恐らく、誰もが一度は立ち止まり、不安を抱え、行方を見定めようともがいた一年であったと思います。その成果として、数々のすばらしい論文ができ、その過程を通して、ものに対する多角的な観点、また長期間にわたって一つのテーマに対して興味関心を持つ持続力を一人ひとりが身につけることができたとと思います。

中三であつたあの頃の私はまだ未熟で、知識も乏しく、自分ができることに限界がありました。しかし私は、誰もやっていないことをしてみたい、誰もまだ出していない考察を生み出した。知的好奇心が強すぎる一方、やはり力不足で応じきれず、何度も不安に飲み込まれそうになりました。簡単に情報を収集して順序よく並べたら、提出できるレベルの論文はできたかも

しれません。しかし、自分が選んだテーマに対して、私はある種の責任感を持っていたので、できる

限りのことをやらないと、そのテーマとの運命的な出会いが台無しになってしまう。そう思い努力した末、自分でも驚くくらい、まとまったものになりました。それが今私の「自信」として心に残っています。

発表会では、そんな思いで書き上げた原稿用紙120枚分の論文を、5分間で既有知識の量が大幅に異なる他の慶進生に発表するため、想像以上に難しいものでした。しかし、論文を書くということは、世界に自分の考えを発信することで、読み手がいて初めて存在価値がつく。そのことを忘れ、ただより多くの情報を追い求めていた私にとって、発表できる形にすることはとても有意義な経験になり、また初心を思い出すことができました。

今回のテーマについて、今はできなかった実験や分析を、また力がついていた三年後に再び調査したいと思っています。

この修了論文は私の一生ものになり、この機会をいただけたことに感謝しています。

10期生 李 卓衍(高一)

テーマ発表会: 獣医学への思い

昨年の年末、テーマ発表会が行われました。

これは志望学部ごとに分かれ、調査するテーマを決め、中学生に向けて発表するといったものです。

僕は獣医学について一人で調査を行いました。まずはテーマ決めですが、僕はこのテーマ決めに一番苦労しました。三・四回はボツになったと思います。ダメ出しをされるときの先生方の、調べ学習で終わってはいけないという言葉から、「この行事へより集中しなければ」と思いました。

そして僕は、テーマを「獣医学の意義」にし、調査・原稿とプレゼンの制作を平行して行いました。非常に緊張しましたが、よい経験になったと思います。この行事を通じて、獣医学への思いが強くなったと思います。

9期生 戒能靖史(高二)



写真は3月の中学校在籍時



将棋を通して学んだこと ~ 絆 ~

あなたの趣味は何ですか？

私は老若男女問わず誰でも楽しめる将棋に興味があった。しかし、ゲームなので勝たなければ面白くない。そこで考えたのは、まず勝つ為には自分の弱さをどうするのか。それには努力と経験を重ね習熟した理解力をつける。常に逆算し、相手の手を読みながら準備と勝負のタイミングを図り、見極める力をつける。ところが、これは、言つ易し行つは難いのである。この問題はとても難しかったが、私はラッキーだった。なぜなら、周囲に答えを導いてくれる人が大勢いたからだ。その中で、完璧な手はないこと、負けを引きずらないこと、あるいは、耐える力こそ次に進める力になることを学んだ。

そして、去年十二月、東京武道館で開催されたU18将棋スタジアムに出場し、中高生の部のチャレンジャー級で優勝した。この優勝は、私一人のものではない。全てに感謝したい。

10期生 中島秀幸(高一)

部活動の絆

部活動の絆について教えてください。9期生は高校生となり、中学校の部活を離れましたが、今でも中学生と高校生との間に部活を通じた絆はありますか？

佐々木 あると思います。河村 目には見えない絆があると思います。

サッカー部で同じポジションだった河村君と山本君は互いにどのように見ていますか？

河村 足が速くていいなあと思います。

山本 体が強いという共通点がありますが、河村さんにはずっと勝てないって思い続けています。河村さんは、なんていうか勢いがあるのですね、そこを見習いたいと思うので、トップをしてきました。

佐々木さんと山崎さん、それぞれの互いの印象は？
佐々木 スマッシュとかがすごく強く、ドライブとかの回

転もかなりかかっているのですね、すごい憧れます。

山崎 練習の時からすごい球が強い子だなと思っていて、高校生になったので、今は練習から離れているのですが、時々練習場所を通るときに見るとすごく強くなってきたから、自分もやばいなあって思います。

高校に進級してからも部活動、あるいは普段校内で出会ったとき、話とかしますか？

河村 しますね。ただ、あんまりサッカーの話はしませんね。

山本 バカみたいな話を先輩としています。その時はすごく楽しいです。

山崎さんと佐々木さんはどうですか？

佐々木 卓球の話よりは学校の話をする人が多いですね。例えば行事などです。やはりまだ経験したことの少ない行事は結構不安だった

りするので、それについて質問したり、アドバイスをもらったりしています。

先輩から聞いたら結構得るものが大きいですか？

佐々木 なんかつく安心します。

山崎さんはどうですか？後輩と話をしますか？

山崎 よくします。佐々木さんが言ったように、行事です。この行事にはこれを持っていったほうがいいよみたいなことを話します。

高校生の先輩、あるいは中学生の後輩と話をすることをどんな風に感じていますか？

山崎 自分が中学生の時は中学生同士で話をしていたのですが、自分が高校生になり、それまで話をしていた中学生とは年齢差は今までと変わらないはずなのに年の差を感じます。

どんな風に年の差を感じますか？

山崎 なんとなく時間がすごく違う感じがします。過ごす時間は同じなのですが、佐々木さんたちはもっと

もっとこれから一年好きなことをしたりとかできるんだって思うとوراやましいですね。

佐々木さんはどうですか？

佐々木 まだ自分が経験していないことを高校生は経験しているの、それを聞けてすごく安心します。

安心感って強いですね。山本君はどうですか？

山本 今の10期生のサッカー部は、河村さんの9期生と仲が良かったので、さっき言っていたように安心感もあるし、先輩と後輩という上下関係に留まらず友達感覚で、普通に楽しく話せます。

河村君はどうですか？

河村 僕たちも一つ上の先輩と仲良く、それが僕たちの代で受け継がれ、山本君たちの代と友達のように仲良くなっているのではないのかと思います。

慶進の部活の絆をどんな言葉で表現できますか？

山本 簡単に言つと、まず同じ学年の中での絆と先輩後輩との絆。あと顧問の先

生との絆。この三つだと思えます。

佐々木 卓球の団体戦ではいろいろアドバイスしてもらってすごく安心したり、学べました。すべて安心もできる絆ですね。

山崎 安心という言葉が出ましたが、長く続く絆だなと思います。高二になって佐々木さんたちの代が高校に進級してきてくるそういう安心感があるので、今までの関係をそのまま続けていきたいと思っています。



後列左から山本哲平くん(10期生)、河村広樹くん(9期生)、前列左から佐々木花依さん(10期生)、山崎奈波さん(9期生)

同窓生



常 恵喬

東京外国語大学
国際社会学部英語学科

橋本 冴夏

山口大学
医学部医学科

早川 知里

山口学芸大学
こども教育学科

大谷優里花

大阪大学
理学部物理学科

潘 佳南

広島大学
歯学部口腔健康学科

平成26年度卒業

6期生の慶進

「私にとっての「慶進」」

卒業してから早一年が経ちましたが、私にとって慶進で得られたものは本当に多いと、今さらながら実感しています。

その中でも、「経験」と「友達」、そして、「先生」は、私が慶進で得たかけがえのないもので、今もこれからも私を支えていってくれるものです。

慶進では、他の中学校や高校ではできないような様々な「経験」をしてきました。

中学校一年生になってすぐにあった宿泊研修。周りがみんな知らない子ばかりでも不安でしたが、この研修のおかげで沢山の友達ができ、はじめとは打って変わって毎日の学校が楽しみになりました。

それから、私が特に印象深かったのは、英語でスピーチをしてみたという人なら、誰でも挑戦できる校内英語スピーチコンテストです。ネイティブの先生に、英語でのスピーチの仕方や発音の仕方、イントネーションなどを教わり、数百人もの前でスピーチをしたのは、本当に刺激的で良い経験でした。今、大学でよく日本語や英語でプレゼンテーションをしますが、慶進で培ったこの経験が本当に役に立っています。

そして、中学生という思春期の多感な時から、少し成長して将来に目を向け始めた高校生の時を一緒に泣いて笑って過ごした友達。

六年間という長い月日のおかげで、お互いの成長を見守り、お互いをより深く理解できました。大学生になった今でもその存在はとてもしっかりしています。本当に家族のようです。

最後に、いつでも生徒のことを一心に考えて、支えてくれる、個性豊かな先生たち。勉強でわからないところがあつたときは、いつでも親身になって教えてくれ、学校生活での悩みなども相談に乗ってくれる優しい先生たちばかりでした。特に、私は受験生ときの担任の先生の存在が非常に大きかったです。志望校の相談や、日頃の勉強の悩みなどを聞いてもらい、アドバイスや励みをもらうことで、不安に押しつぶされそうだった受験生活を乗り切り、晴れて第一志望校に合格することができました。

慶進には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも慶進で学んだことや得たものを大切にして、一步一步前進していきたいと思っています。

6期生 常 恵喬

卒業して1年が経ちました。慶進ってこんな場所ですよって言うとしたら、どんな風に表現しますか？

常「豊かな場所」です。先生たちの個性とか、同級生の個性が本当に豊かで色んな人がいて、色んな考え方があり、毎日刺激されて成長していくっていう感じでした。あと、行事も豊かでした。色んな意味で、良い経験が出来たとすごく思います。

橋本 私は自由な場所だったと思います。さっき言ったように、みんなそれぞれ興味があることがあり、そのやりたいことを学校が結構応援してくれる。例えば、英語が好きの子は、スピーチコンテストや英語を使った交流会などが学校の行事であつたし、私は割と化学が好きで、その関係で高校二年生の時に「科学の甲子園」にも出場できました。その中で勉強になったことも多いし、好きな事をやらせてもらったと思います。自由だから成長させてもらえたなっと思って感じます。

大谷 私は常さんとは逆で、入学してみたら良い意味で普通だっと思っていました。私は小学校の時、慶進を受験するぞ！と思っていて、時は本当に慶進はみんな勉強ばかりで、友達関係とか薄いのかかと思っていたのですが、入学してみると、あっ、普通じゃん！と思いましたが、だから今までと何も変わらず、でも勉強には一生懸命というところが、いいなと思いました。

早川 私は中高一貫だったという

のが本当に一番良かったと思っと思います。6年間だからこそ友達との絆だったり、3年間ではお互いに出せない部分が出せたりもしたし、先生との信頼関係も深まるなど、とにかくその6年間というすごく長い期間の中で、勉強も友達関係も一緒に成長出来たと今思えば、私は慶進に入学してすごく良かったと思います。

6年間がよかったです。では潘さんはどうですか？
潘 私も早川さんとほとんど同じ意見ですが、慶進は本当に良い友達に出会えた場所だと思います。卒業してもやっぱり慶進の友達が支えてくれるし、自分の気持ちも全部さらけ出せるから本当に慶進に行つて良かったなと思います。女子の慶進生にとつての慶進ってどんなところですか？

早川 さっき言った6年間がちよつとキーワードなんです。女子って結構グループが出来るといって、普通は中学校でグループが出来て、高校に入学するとまた新しいグループが出来るといって感じだと思えます。もちろん私たちも良くも悪くもグループはありますが、特に私たちの学年はグループにあまりこだわらないという、6年間いるからこそみんなが固まるのではなく、色んな人と仲良くなれるというところが、慶進にとつての女子だったたり、女子にとつての慶進だったと思います。

6年間だからこそその女子の団結力！という感じですね。

全員 そつですーそつです！

常 多分中学3年間だけだったから、寂しかったり、あの時こつてれば良かったかと思つたまま卒業してしまつと思うのですが、慶進では、残りの高校3年間で、みんな成長していつ、あゝこの子ならもつとこつしてあげようとかあゝもつとこつしようとか、後悔がなくなるといふか、自分が成長するにつれて周りも一緒に成長して、良いところも悪いところも受け入れられる時間が6年間だったと思います。

慶進の絆ってどんなものですか？
橋本 やはり6年間あつたから、何かあつたときでも、みんな自分がどういふ人が分かってきている人が多いので相談した時に、やっぱり人一倍分かってくれるところはみんなあると思えます。長い間付き合つただけあつて、この人はこういう人だから多分こつという事で、悩んでいるんだろつなみたいなことがよりわかり合えるところがあります。それはもう男女問わず。

最後に後輩にメッセージを！
常 私は失敗を恐れずに何事にも挑戦して欲しいと思えます。なぜかといつと、大学生になつて思うのは、やはり中学校とか高校の頃の経験って本当に役に立つし、その頃しか出来ない経験があると思うんです。ね。人生の中で、チャンスつて何回も来るわけじゃないと思うので、高校生や中学生の時にしかこ

いチャンスを押んで挑戦していつて欲しいと思えます。それがたとえ失敗であれ成功であれ学ぶことは、少なからず絶対にあると思えます。逆に私的には、失敗した時の方が学びはすごく大きくて、今はそれを生かして成長していけると思つているので、たくさん挑戦して欲しいですね。

大谷 私は何となく、大学行くだろうと思つて中学受験をして、中高一貫の学校を選んだつてところがあつて、その中で勉強しながら大学進学を見据えて少しずつ勉強しながら、色んなやりたいことが見つかり、あーでもない、こーでもない、と迷い悩んでいく中で最終的に一つ自分の目標を決めることができて、今に至るのですが、6年間腰を据えてではないですが、じっくり本当に自分が一生かけてやりたいことは何かといつことを考えて欲しいですね。

橋本 私は高校を卒業して思ったのが、他の高校と比べて慶進で6年間過す間に、大学受験の知識・センター試験はこついうものだと、二次試験は何のためにあるのかとかさついうことを、一から学ぶことができ、自分が受験する頃にはちゃんと理解していたので、それが当たり前の事だと思つていたのですが、他校はさついうことはないので、慶進のシステムが私にも分かるように教えてくれていたのだといつことに、すごく感謝しています。それで、もちろん勉強も大事ですが、やはり

中学生・高校生のときにしか出来ないことがたくさんあると思つので、それを大切にしたいです。

潘 慶進は本当に色んな経験が出来るし、行事もいっぱいあるから本当に楽しんで欲しいです。私は高校の時、勉強をおろそかにしていたので、本当に受験とか大変だったので、日ごろから勉強も頑張つた方がいいし、行事も一生懸命取り組んだり、他にも色んなことに目を向けて自分からやりたいことを見つけて挑戦して欲しいです。

早川 私はもちろん中高6年間すごく充実していて楽しかったのですが、やはり後悔していることももちろんあつて、高校生の時に、少なくとも私は少しどこかまだ考えが甘いところがあつて、高校生だからまだ大人じゃないからといつ甘えて、そんなに明確に将来のことを考えていなかったのですが、大学生になつて今高校生の人たちを見たら、たくさん一生懸命考えられる時間があつていいな、とか思つので、当時の私も言われていたのに聞き流してしまつていたので、本当に高校生・中学生の皆はまだまだ時間もあるので、まだ先のことって思わずに自分のやりたい事を、一つに決めなくても良いので、目標を持つてちゃんと道筋を立てて日々過ごしてもらいたいなと思つています。

|お|知|ら|せ|

平成28年度 行事予定

5月21日	体験ツアー
6月25日	体験ツアー
7月9日	学校説明会
8月28日	学力診断テスト



学校説明会(昨年の様子)

慶進でお会いするのを楽しみにしています。
ご不明な点については、慶進中学校・高等学校に
ご連絡ください。

TEL 0836-34-1111

体験ツアーの行事名は変更する場合があります。

La photo de Keishin 卒業生と



中高一貫6年間という時間を見守る教員の気持ちは、まさに我が子の成長を見守る親の気持ちと似たものがあるような気がします。小学校を卒業して間もない、幼さを持った彼等が、卒業を迎える時には成人まであと少しの立派な大人の顔つきになっている。そこに頼もしさを感じ、それと共に学校を巣立っていく寂しさも感じ。そこに家族のようなあたたかさを感じるの、私だけではない気がします。



第6回 小さな本箱

理科 川尻 凌平先生のおすすめ

直感力

日本で一番有名な将棋棋士といえ、と聞かれると、多くの人がこの人の名前を思い浮かべるであろう。

天才棋士、羽生善治、将棋界初の7タイトル独占という偉業は日本中の話題となった。

私自身、将棋に精通している訳ではないし、将棋のルールを知っている程度ではあるがこの人の名前を聞くと、おおっ、と思ってしまう。この記事を書くにあたって『直感力』というタイトルと、その著者の名前を見てそれこそ直感でこの本を手にとった。

「直感とは、無駄な迷い、思い、考えのない状態で浮かび上がっているのだから、次に何をすればいいのか、何を望んでいるのかが如実にあらわれる。」

(プロローグより抜粋)

直感とは経験からくるものであり、磨くことができるというのがこの本を通してのテーマである。事実、私がこの本を手にとったのも適当に選んだわけではなく、著者のネームバリューが大きなく、決め手となっている。これは私の中の経験がこの本を選ばせたのだろう。特に悩んだわけでもなく、なんとなく選んだ。この感覚は私自信、何かを決め

羽生 善治

たり、購入したりする際に重要視しており、著者の考えを知ってすんなりと納得できた。将棋の対局の中でも、長考して悩んだ結果ごく平凡な手を打つことがある一方、この手しかなないと直感で選ぶ場面もあるようだ。ここでいう直感も今までの経験の積み重ねからくるものだと思いが述べている。これはスポーツ選手が感覚的にスーパープレイを繰り出すのに似ているのではないかと思う。ただ、やはり重要なのは、この感覚的なプレイも今までの努力や経験の積み重ねがあつて初めて成功するということだ。

さて、この本の中では様々なテーマについて将棋の世界を通してながら著者の考え方を知ることができる。詳細に関しては一読してもらうとして、中でも私が印象に残った、是非とも慶進生に送りたい著者の言葉を最後に紹介したい。

「不安な時間に対して耐性をもつこと。情報を積み重ねただけで成果が見えるような、性急な進化を目指してはいけない。」

(本文より抜粋)